

ここが聞きたい!

# いっぱん

## たたら製鉄を 日本遺産制度に申請を

内田 勇 議員

**町長** 鉄の道文化推進協議会で  
手続きを進めている



**問** 世界に誇れるたたら製鉄について、地域資源を活用して地域の魅力を高める地域ブランドが、地方創生の切り札として注目されているが、たたら製鉄の世界遺産登録についての方針は、

**答** 日本古来のたたら製鉄は、自然と共生した環境循環型の産業であり、生産される日本刀の材料の玉鋼は、世界に誇れる貴重な財産である。ユネスコの世界遺産に登録されている日本の文化遺産が14、自然遺産が4つである。地域全体の機運の高まり、文化庁の指導、特に県の主体的なかわり方が最も大切であり、本町での基礎的な学術調査を継続しながら働きかけ

**問** 世界遺産登録を目指すしながら、貴重な文化財を広くPRして地域の観光振興につなげる日本遺産制度ができたが申請する考えは、

**答** 日本遺産は地域に点在する有形、無形の文化財をパッケージ化し、日本の伝統文化を語るストーリーとして平成27年度より新しく認定されるもので、奥出雲町、雲南町、安来市で構成する鉄の道文化推進協議会が申請母体となって手続の準備を進めている。

**問** エゴマとそろばんという全くの異業種ではあるが、産・官・学の連携で認知症予防をキーワードに全国展開をできないか提案する。

10年後には認知症の人は700万人を超えるといわれ、国も認知症対策を国家戦略として取り組むと発表している。エゴマ油には認知症やうつ病、生活習慣病の予防にも効果があるといわれ、テレビでも取り上げられ、品不足の状態であるが奥出雲ブランドとして生産拡大を目指すための支援の考えは、

**答** 奥出雲有機エゴマは、年々栽培面積が増加し、平成26年の栽培実績は22haまで拡大、日本一のエゴマ産地としてブランド化を目指す考えである。

農家支援は、有機栽培推進支援事業による育苗経費助成や開発農地特産振興事業の作付奨励金などの支援と、汎用コンバイン、植えつけ機械、搾油機械の導入など、生産性向上とコスト削減を図る支援をしている。

**問** 富山市では、エゴマの6次産業化を目指して田んぼの転作には奨励金を出したり、耕作放棄地を再生し、企業や新規就農者に貸与、また植物工場も建設し、エゴマの葉を育てて学校給食、病院の食材として活用されている。奥出雲町も、新産業創出と産地間競争を勝ち抜くための6次産業化を目指した更なる支援を、

**答** 奥出雲町の歴史や風土、自然を生かした無農薬有機栽培で付加価値の高い有機エゴマ油であることを全国にアピールし、更なる6次産業化の推進と販路拡大に取り組む。

**問** そろばんを活用した脳トレーニングで認知症予防と、そろばんを活用した先進事例として全国展開し、地場産業の再生を、

**答** 認知症は生活習慣病対策や、人とのかわりや脳への刺激によりリスクを減らすといわれ、特に運動、工作、料理、ボランティア活動が有効であり、そろばんは指先を動かしたり脳を使うことから予防につながるのでは検討していく。

